

平成20年10月20日

国土交通省 道路局長 様

大和郡市長 上田 清

平成20年9月19日付け（国道企第37号）で依頼のあった、
今後の道路行政の意見・提案については、下記のとおり提出します
ので、よろしくお願いいたします。

1. 広域幹線道路の整備促進

広域幹線道路である京奈和自動車道やそれに伴う大和郡山ジャンクションの整備促進は、奈良県の政治、経済活動の活性化や広域的な観光振興を図るだけでなく、本市の道路行政及び広域幹線道路を活用した産業の活性化など、まちづくりにとっても重要な課題となっています。

これら事業の積極的な推進を要望します。

1. 道路整備のための財源確保

広域幹線道路の整備による国道24号や25号の渋滞緩和やアクセス道路の整備をはじめ、主要地方道路や都市計画道路の計画的な整備、さらには市民に身近な生活道路の整備や維持管理、地域の交通安全対策など、市民の道路整備に関するニーズも高く課題は山積しています。

よって、地方の道路整備を引き続き着実に推進し適切な道路管理ができるよう、必要な財源の安定的な確保を要望いたします。

1. 関連事業への支援

現在進められている京奈和自動車道の整備や大和郡山ジャンクション事業に関連して、地元要望などによる事業区域外の道路整備（生活道路）や、同事業に伴う大和川総合治水対策における雨水調整池の設置や維持管理で多額の経費が必要となります。

厳しい地方の財政状況に鑑みて、こうした整備費や管理費にも、従来の補助制度の枠を超えて、柔軟かつ効果的な財政支援策を要望いたします。

1. 社会資本ストックの維持管理への支援

本市が管理する市道は延長357km、路線数にして136路線あり、舗装率は97%となっています。これらの道路の日常的な維持管理に努めているものの、限られた財源のなかで部分的な補修にとどまっているのが実態です。交通量や沿道環境の変化、経年劣化によって、老朽化したストックの増加が顕在化してきています。交通安全の確保の点からも、これらの道路の改築や舗装の打ち替えなど、計画的な更新が課題となっています。

ついては、こうした舗装の打ち替えなどの維持管理や更新に対する補助制度等の支援を要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

市の幹線道路は、南北に国道24号、東西に国道25号があり、市南部に広域幹線道路の西名阪自動車道が横断しており、京奈和自動車道（大和区間）が一部開通し、西名阪郡山インターチェンジ付近は、交通の要衝となっている。

また市内には、奈良大和郡山斑鳩線（城廻り線）をはじめとする主要地方道が走行している。

都市計画街路は27路線あり58.3%が未整備で、交通量の増加により交通渋滞が慢性化する一方、市街地や農村地域では幅員4m以下の狭隘な道路が多く、防災面や交通の安全性が確保されていない現状である。

そうしたなかで、市街地や南北に貫く都市計画道路蘭町線の全線開通に取り組んでいるところであるが、本市の不十分な道路状況から、道路整備に対する市民のニーズも高く、京奈和自動車道（大和北道路）の整備や市のまちづくりを踏まえた道路網の整備が求められている現状にある。

○課題

1. 京奈和自動車道や大和郡山ジャンクションの整備に伴い、アクセス道路の整備をはじめとする市内の道路網の体系的再編成が課題となる。

1. これにあわせて、各駅周辺との連結を重視し、地域・地区間交通のネットワーク化を図るなかで、駅周辺整備や歴史を生かしたまちづくりを推進する。

1. さらに、都市計画道路について、位置づけや、必要性、緊急性を考慮し、体系的な整備計画を見直すなかで、計画の具体化を図る。

1. 中心市街地においては、蘭町線の早期開通や城廻り線整備計画の早期着手ををめざし、これらに連絡する市道整備を進め地域の活性化を図る。

1. また、市南部地域にあっては、広域幹線道路の整備やスマートインターチェンジの設置などを通じて、広域交通条件の一層の向上を図り、昭和工業団地を中心とした産業の活性化を進める。

1. 市の中央地区にあっては、大和中央道と国道24号を結ぶ新規東西道路の整備についての検討が必要であり、また、調整区域等郊外の農村集落地区においても効果的な道路整備の推進が課題となっている。

1. 長い歴史と伝統に培われた、自然に恵まれてきた大和郡山市は、古くから水田やため池を活用した金魚の養魚など水と共生した豊かな生活の場づくりがおこなわれてきた地でもあり、近年では、住宅都市、工業都市としても発展を続ける。

今後の方向としては、歴史に学び、先人の訓を謙虚にうけて、地域の歴史・風土との一層の調和を前提にして、市民が心から誇ることができる平和で文化的なまちづくりを進める。

また、本市の位置する大和平野地域の将来は、リニア中央新幹線、京奈和自動車道などの高速交通網を軸とした交通ネットワークの形成を図るとともに、学術研究機能、業務機能、文化機能、快適環境居住機能を有する地域として、広域的な交流・連携を促進し、近畿圏のセンターゾーンの一翼を担って飛躍的な発展をめざす地域として位置づけられる。したがって、本市の将来像の設定においても、近畿・京阪神圏、奈良県等における位置づけをはっきりと認識し、歴史的資産と未来の可能性の両側面の調和のとれた都市をめざす。

本市の中心市街地は、郊外型での大型ショッピングセンターの進出や城下町特有の道路が狭く駐車場不足などにより利便性が低下し、それに加えて少子高齢化により空洞化が進み、商店街のみならず市街地そのものが衰退している。しかし、従来の中心市街地の活性化は、商業空間の活性化を中心的な課題としてきたために、衣、食等の供給者としての視点が不十分であった。

今後は、質の高い生活空間の形成を目標に商店街だけでなく、生活者の視点か、住宅、事業所、文化施設、病院、福祉施設、役所等の公共施設を都市の構成要素として中心市街地に誘導するとともに、これら不可欠となる、道路網によるネットワークや利便性を推進することにより、住居機能の充実に加え、多くの住民が利用する都市機能のアクセスがしやすい「まちづくり」への転換が必要である。

この様な観点を踏まえ本市のまちづくりの整備計画としては、従来の商業施設や駅前ターミナルの再開発を中心とした政策から、安全、安心を基本としたコンパクトシティの実現を目指す。

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○現状	○代表事例	○課題	○期待する効果や評価	○その他
	・広域幹線道路である京奈和自動車道の全線開通や大和郡山ジャンクの早期建設。 ・京奈和自動車道（大和北道路）のアクセス道路である都市計画道路の城廻り線（県）や、中心市街地を南北に貫く蘭町線の早期建設。 ・西名阪自動車道のスマートインターの早期整備。	・広域幹線道路の整備促進は、市の道路行政やまちづくりの骨格をなす重点課題。 ・中心市街地は、城下町特有の道路が狭く一方通行も多い。また、踏切交差部の渋滞などで緊急車両の通行にも支障をきたしている。 ・市南部地域は、国道25号の慢性的な渋滞や東西道路の整備不足により、企業活動に支障をきたし、大型車両の生活道路への進入で住民の生活環境の悪化をまねいている。	・広域交通の要衝として一層条件が整い、幹線道路の渋滞緩和、一般道の交通事故の削減、医療サービス・防災対策の向上、地域の環境改善や産業の活性化、さらには、市の道路網の体系的再編成を通じたまちづくりを進めることができる。 ・中心市街地へのアプローチが容易になり、当該道路に連結する道路整備を進め住宅密集地の防災面の向上を図り、近鉄郡山駅周辺整備や、市のシンボルである郡山城址の整備などと連携して、中心市街地の活性化を図ることができる。 ・県下最大の物流拠点である昭和工業団地から、西名阪自動車道への直接乗り入れが可能となることで、交通渋滞の緩和や、企業や住民の利便性が向上するとともに、新たな企業立地が期待でき、産業の活性化を図ることができる。	